

## I-13. 「科学知の総合化」海外事例調査

### Survey on the graduate education programs towards the Integration of Science Knowledge in Foreign Countries

<b>キーワード</b> <b>Key Word</b>	科学と社会, 大学院教育プログラム Science and Society, The Graduate education program
---------------------------------	--

#### 1. 調査の目的

本調査は、世界の主要大学における「科学と社会」の知見を適用した大学院教育に関わる先進的な取組について俯瞰し、委託元の大学における教育開発に資する知見をとりまとめることを目的として実施したものである。

#### 2. 調査研究成果概要

##### (1) 調査の内容

THE (Times Higher Education) 総合ランキング 2012 のトップ 100-200 大学 (101 校) を対象に、次のような項目についてリスト化を行った。なお、2012 年度には、トップ 100 大学について同様の調査を実施している。

- ・ ID
- ・ 国
- ・ 大学名
- ・ 該当するプログラムの有無
- ・ プログラム名 (該当する場合)
- ・ 研究科 (分野) 等 (該当する場合)
- ・ 関連するプログラム (主に STS)
- ・ 参考リンク (URL)

また、これらのリストからうかがえる傾向について、若干の考察をまとめた。

##### (2) 調査の方法

一般的な検索サイト (Google) に加え、各大学及び修士・博士コースに係るポータルサイト上での関連語検索を実施した。

また、前回の調査との継続性、比較可能性を重視し、該当する教育事例かどうかの判断基準として、以下の 2 つの条件を設定し、共に満たしているものを抽出した。

- a) 「科学と社会」の知見を適用した主に実務家・科学者養成プログラムであること
- b) プログラムが大学院レベルで提供されていること

なお、a) のみ満たしている場合 (学部レベルでの提供のみの場合) は、「関連するプログラム」としてプログラム名と URL を挙げた。また、b) は満たしているが、「科学と社会」そのものを学術的に追求することが主眼の Science and Technology Studies や Science, Technology and Society (STS)、科学哲学・哲学史専攻の研究者養成を主眼に置いたものも「関連するプログラム」として挙げた。科学と「社会」との関連において、例えば「ビジネス」や「政策」に重点を置いたコースも「関連するプログラム」として残した。

##### (3) 主な成果

###### ① 全体状況

地域・国別に、該当する取組を行っている事例数を比較すると次の通りである。

表：地域・国別にみた事例数の比較

地域・国	リスト化の対象件数	うち該当する事例数
北米	35	4
米国	31	3
カナダ	4	1
中東	3	0
イスラエル	3	0
アフリカ	1	0
南アフリカ	1	0
欧州	51	6
英国	19	2
アイルランド	2	0
オランダ	8	2
スイス	4	0
スウェーデン	4	1
デンマーク	2	0
ドイツ	6	1
フィンランド	1	0
フランス	3	0
ベルギー	2	0
アジア・オセアニア	10	0
日本	2	0
韓国	1	0
台湾	1	0
香港	2	0
ニュージーランド	1	0
オーストラリア	3	0
合計	101	10

今回取り上げた大学を「世界の中堅大学」とすると、そのうち約 10%の大学が何らかの形で「科学と社会」の知見を適用した大学院レベルのプログラムを提供しているということが言える(上記基準による該当事例は 101 校中 10 件)。2012 年度調査における 27 件と比べると相当少ないことが分かる。このうち北米が 4 件、欧州が 6 件で、欧州においてイギリスとオランダがやや目立つのは前回の調査と同様の傾向と言える。

## ②テーマ

該当事例で扱っているテーマは以下の通りである。

- ・ 環境と社会・政策(イースト・アングリア大学、グラスゴー大学)
- ・ 科学・技術と社会(ミュンヘン工科大、マーストリヒト大学、ルンド大学、オタワ大学)
- ・ 生物倫理(アリゾナ州立大、エモリー大学)
- ・ 科学教育・コミュニケーション(ニューヨーク州立大学バッファロー校、アムステルダム自由大学)

アプローチとしては、政策科学、倫理学、教育学等が用いられていることが分かった。